



-Contents-  
ウクライナ避難民支援事業活動状況報告  
YOKE 入職職員紹介  
横浜市多文化共生総合相談センター 相談の現場から  
寄付者のご報告



公益財団法人 横浜市国際交流協会 (YOKE)

〒220-0012 横浜市西区みなとみらい1-1-1 パシフィコ横浜 横浜国際協力センター5階  
TEL 045-222-1171 (代表) FAX 045-222-1187  
E-mail yoke@yoke.or.jp  
URL <https://www.yokeweb.com>

ウクライナから避難してきたみなさんが、横浜で安心して暮らせるように…

## YOKE のウクライナ避難民支援

2022年2月24日に始まったウクライナ侵攻により、多くのウクライナ人が命を失い、負傷する事態が続いています。このような状況の中、横浜市では市民・企業・民間団体等と力をあわせて、オール横浜で避難民のみなさんの安全・安心な生活を支援しています。YOKEはこれと連携し、避難民のみなさんの支援にあたっています。



YOKEでは横浜市から次の支援事業を受託し運営しています。

### ウクライナ避難民支援相談窓口

YOKEでは平時より在住外国人のみなさんからの相談に対応する「横浜市多文化共生総合相談センター」を運営していますが、横浜市では、2022年3月、この相談センターと市内11か所の「国際交流ラウンジ」を「ウクライナ避難民支援相談窓口」と位置づけました。相談センターには、新たにウクライナ語を話せるスタッフを配置するとともに、外部専門家の助言や関係機関・団体の協力を得ながら、避難民のみなさんの相談に応じています。また、母語による情報提供として、生活案内や関係機関窓口の紹介を作成するとともに、8月にはウクライナ語・日本語による避難民支援ウェブサイトを開設しました。



### 日本語学習の支援

避難民のみなさんが、日常生活に必要なことばや文化習慣等を学ぶお手伝いをしています。支援にあたっては、地域で日本語学習を支援されている方等の協力も得ることで、日本語学習を通じて知り合いが増え、地域社会での共生につながります。



### ウクライナ・カフェ「ドゥルーズィ」の運営

避難民のみなさんが、母語で情報交換し、安心して交流できる拠点を運営しています。この拠点は、日本語学習や就職支援セミナーなどさまざまな支援やイベントの場にもなっています。

### 支援体制の強化



ウクライナ避難民の支援はYOKEにとって前例のない事業です。これまでの在住外国人のみなさんへの相談対応等で蓄積した知識と経験を基に、組織間の連携・協力と日々の情報共有により、一つひとつ課題解決にあたっています。また、ウクライナ出身のスタッフからの避難民のみなさんの立場にたった意見を反映するとともに、外部専門家によるメンタルケアの勉強会など研鑽に努めています。

YOKE主催・横浜市とYOKEの共催イベント等

これまでに交流カフェ「ドゥルーズィ」で行われた主なイベントなど



## 日本語教室・日本語ワークショップ

日本語教室「みなとコース」では、初めて日本語を学ぶ人を対象に、挨拶や自己紹介など、日常生活に役立つことばを学びました。また、日本語ワークショップでは、梅雨、七夕、盆踊りなど、日本の文化や季節行事・習慣などに触れる、体験型のワークショップを行いました。いずれも参加者同士の交流も大事にしています。



## 就労支援セミナー

横浜市とハローワーク横浜が、日本での就労に必要な心構えやマナーなどを説明するとともに、求人企業を紹介しました。



## ウクライナ文化のワークショップ

ウクライナに伝わる手作り人形や卵の殻を使った工芸など伝統文化に親しみます。



軍事侵攻による身の危険から逃れなければならないウクライナの方々。こうした方々を我が国、そしてオデーサ市と姉妹都市にある横浜市が積極的に受入れ、支援に取り組む中、私たち YOKE は、市のオール横浜支援パッケージの一翼を担っています。



この間、市民のみならず、団体や企業のみならずの温かいご支援に心より感謝申し上げます。ありがとうございます。今後も支援に力を注ぐとともに、この取組が同じようにお困りの外国人の方々への支援や、私たちが目指す多文化共生社会の実現につながるよう、尽力してまいります。

YOKE 事務局長 鈴木 一博

避難民の方々は祖国から遠く離れ、文化も全く異なる日本に避難することになり、不安で一杯だと思います。でも、ウクライナ語スタッフのみなさんが、とても親身に熱心に接している姿に心打たれ、強い連帯感を感じます。少しでも早く生活の基盤を築き、子どもたちも笑顔で将来に向かえるよう寄り添っていききたいと思います。(教育等相談担当)

頑張っているウクライナの避難民の方を応援して、役に立ちたいと思います。通訳だけではなく日本での日常生活の相談にも対応して、できるだけ困っている人を助けたい。(事業コーディネーター)



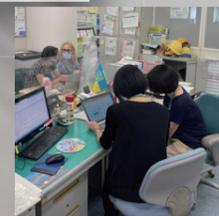
私はウクライナ避難民支援の募金活動を担当しています。募金箱はみなとみらい事務所に設置されています。募金は、市内に避難されているウクライナの方々へニーズ調査を経て、必要な物資を購入する等、生活支援等に活用させていただきます。ご協力のほど、よろしくお願いたします。(総務・募金等担当)

※募金に関する詳細は本紙 6 ページをご覧ください。

ウクライナ避難民交流カフェ「ドゥルーズィ」の担当として、ウクライナ避難民のみなさまに安らぎの場を提供できるよう、また地域社会や市民のみなさまとの交流の機会となるよう尽力したいと思います。避難民のみなさまやドゥルーズィの支援者様が、交流拠点としてドゥルーズィを大切にされていることに、感謝申し上げます。(交流拠点運営担当)

ロシアの侵攻でショックを受けて、愛しているウクライナのことをとても心配しました。自分が何もできないことにすぐ悲しんでました。日本はウクライナの問題に応じて、たくさんの支援してくれて、私ありがたい気持ちでいっぱい。今は YOKE の仕事で自分の居場所を感じています。ありがとうございます。(事業コーディネーター)

日本語を学び就職するために頑張っている避難民の方々の姿を見て、とても考えさせられます。ウクライナにいる家族のことや故郷の街を思い語る人、人生が思ってもいない方向に変わってしまって心配と不安でいっぱいの人。戦争が終わったら祖国に帰りたいと思っている方はたくさんいます。そんな日が早く訪れますように。(事業コーディネーター)



## ウクライナ避難民支援事業に携わる 私たちの「おもい」

前例のない中で始まったウクライナ避難民支援事業。私たちにとっても初めて経験することが多く、常に模索しながらの活動が続いています。そのような状況の中でも、1 つひとつ経験を積み重ねながらウクライナ避難民のみなさんにとってより良い支援となることに努める毎日です。

ウクライナ避難民支援事業は YOKE 内部スタッフだけでなく、さまざまな人に支えられています。支援くださる人々は、この事業に欠かすことができない大切な存在です。

1 日も早くウクライナに平和が訪れ、ウクライナ避難民のみなさんが安心して母国に帰ることができる日を願いながら私たちの活動は続きます。

このページでは常に模索しながら事業に奮闘するスタッフの声を紹介します。



ひまわりの絵が付いたメッセージはウクライナ出身スタッフからです。

「ウクライナ避難民支援事業」は日本に避難してきているみなさんにとって大きな助けとなっていると思います。戦争から逃げたウクライナ人は知らない国へ来て、日本の文化も暮らしも日本語もわからないので大変でストレスがたまると感じます。ですから、このような支援活動は避難民にとってありがたいと思います。(事業コーディネーター)

戦争が早く終わってほしい。みなさまお元気で。(事業コーディネーター)

YOKE のみでなく、横浜市の中でも事業として避難民支援するのが初めての試みではないかと思う。そのためみなさんが試行錯誤で進めてきた。避難民の 1 人ひとりの人生に寄り添うことをどう実践するかは大仕事だと思う。(教育等相談担当)

ウクライナ出身者や教育・福祉・カウンセリング等専門家の協力を得て、くらし・日本語・居場所に関わる取り組みのなか、困難な状況下に来日し前向きに日々を送る一人ひとりによりそう大切さを実感しています。多文化共生の実現には、地域と世界の双方に目を向け、人と向かい合いつつ政治にも関心を持つことが欠かせません。(交流拠点運営・相談・日本語学習支援担当)

困っているウクライナ避難民を助ける、とても重要な事業だと思います。その事業に参加できてうれしいです。(支援事業コーディネーター)

言葉も文化も違う環境での生活は大変かと思えます。私たちの事業がウクライナ避難民のみなさんにとって少しでも安心につながることを願っています。事業を通じて得た知識、経験を将来的には在住外国人のみなさんへの支援へつなげていくことが私たちの使命ではないかと考えています。ウクライナに 1 日も早く平和が訪れますように。(支援ウェブサイト担当)

もともと人を助けることが好きなので、この仕事を始めたときすごくうれしかったです。(支援事業コーディネーター)

これまで日本語教室や、日本語の行事や文化を学ぶワークショップを行うなかで、私たちもウクライナのこと、みなさんのことを教えてもらっています。みなさんが生活のなかで日本語を使ってみよう、人と話してみようと思えることが増え、生活しやすくなるお手伝いができたら嬉しいです。(日本語学習支援)



2022 年 9 月 10 日 (土)・11 日 (日) グローバルサンデーマーケットにて

こんにちは！王慶紅と申します。3月末まではみなみラウンジで嘱託職員として多文化共生に関する事業を担当してきました。この4月からは、YOKEの職員として働かせていただくことになりました。勤務地は変わっていないので、特段に職場環境は変わっていませんが、仕事内容は少し変わり、自分が持つべき責任感や自分の当事者力をもっと発揮していけたらと思う毎日です。

幼少時代は父の転勤で中国の新疆ウイグル自治区で過ごしました。そこはウイグル族を始め13の少数民族が住んでいます。幼い時から色々な言語が飛び交う中で育った私は、「世界にはいろいろな民族がいて、お互いの文化を尊重しなければいけない」とこの地で学びました。

これから YOKE の職員として責任の重さに身の引き締まる思いです。これまで以上に頑張ってまいります。どうぞよろしくお願い致します！



みなみ市民活動・多文化共生ラウンジ

おう けいこう  
王 慶紅

こんにちは。YOKE では所属の「グローバル人材育成支援課」の他に「多文化共生推進課日本語グループ」、さらに「鶴見国際交流ラウンジ日本語部会」の3部門を担当しています。セクションの垣根を越え、刺激あふ、良い点を導入することに心がけています。

グローバル人材育成支援課では、小学校でSDGsや国際協力センターの紹介をする「出前講座」や語学講座。多文化共生推進課日本語グループでは、外国人従業員の方への日本語教育やウクライナ避難民への支援。鶴見国際交流ラウンジ日本語部会では、日本語ボランティア向け講座など多種多様です。共通するのは多国籍の方それぞれの気持ちに寄り添い、一緒になって考え、発信し、YOKEを知って感じていただくこと。

横浜市に笑顔が1つでも増えればと毎日「ちむどんどん」しています！気軽に何でも声をかけてください。お待ちしております。

グローバル人材育成支援課

かみや もとき  
紙谷 元己



## 横浜市多文化共生総合相談センター 相談の現場から



**病院で手術が必要だと言われました。  
勤務先で社会保険には入っていますが、手術費用が心配です。  
(スペイン語での相談)**



それは心配ですね。  
健康保険の制度では、医療費が高額になったときに払い戻しが受けられる制度があります。公的医療保険（会社で加入する健康保険や国民健康保険）に入っていれば、病院窓口での支払いが高額だったとき、収入に応じて一定の金額以上は支払わなくてよい「高額療養費制度」が利用できます。例えば、年収が500万円、70歳未満の方が100万円の手術を受けた場合、自己負担額は87,430円になります。

窓口でまとまった金額を払うことができない場合は、事前に「限度額適用認定証」を申請して病院に提示すれば、支払いは自己負担限度額までになります。まずは会社に相談してみましょう。

また、もし民間の医療保険に加入されている場合は、給付を受けられる場合もありますので、よく保険証書を確認してください。

病院では、医療費について医療ソーシャルワーカーに相談ができますので、安心して手術を受けて下さい。お大事に。

横浜市多文化共生総合相談センターでは、外国人のみなさんからの質問に11言語で対応しています。  
お気軽にご連絡ください。 電話 045-222-1209

## 私たちの新しい仲間を紹介します！

YOKEでは2022年5月に新しい仲間を4名迎えました。  
現在、それぞれの部署・担当業務で日々大活躍中です！

みなさま初めまして。  
配属先である総務課で、財団運営、庶務、経理などの業務を行なっています。また、横浜市のウクライナ避難民支援の一環であるウクライナ交流カフェ運営事業にも携わっています。

YOKEの業務を通して、横浜の市民活動の力強さを日々実感するとともに、それらに学ぶ身として、自己の言動を日々振り返り、刺激を受けています。慣れない業務に戸惑うこともありますが、前向きな気持ちで取り組むことを意識しています。

多文化共生社会の実現に向け、尽力いたします。どうぞよろしくお願いいたします。

## 鶴見中央コミュニティハウス 鶴見国際交流ラウンジ

鶴見国際交流ラウンジ

こばやし ひろこ  
小林 広子

初めまして。私はこれまで編集者、記者をしてきましたが、一昨年インドネシアの高校で日本語教育に携ったことをきっかけに国際交流の仕事に興味を持つようになりました。そしてこの度あってYOKEに入職し、鶴見国際交流ラウンジの館長に就任いたしました。生まれ育った横浜へ、微力ながら恩返しをさせていただけたらと思っています。

現在、南米を中心に中国、ベトナムなどさまざまな国の人が暮らす鶴見の地で、多文化共生のまちづくりに取り組んでいます。情報提供、相談対応のほか、学習支援、市民交流などの事業を行っています。今、特に感じているのはラウンジが外国につながる子どもたちにとって大切な居場所でもあるということ。いつこの国の人が訪れても、寄り添い、安心感を得てもらえる—そんな多文化共生のまちの拠点にしていきたいと考えています。



## YOKEからのお知らせ



YOKEとその関連施設、横浜市国際交流ラウンジで開催する多文化共生に関する研修会やイベントの情報を月2回メールで配信しています。多文化共生や国際交流に関心をお持ちのみなさま、ぜひ登録ください！

多文化共生に関する研修会やイベント情報をいち早くお届けします！



登録 URL <https://m.bmb.jp/bm/p/f/tf.php?id=yoke&task=regist>

## 寄付をいただきました

大嶋 延幸 様

他1名の方からご寄付をいただきました。  
ありがとうございました。  
寄付金は、ご指定いただきました事業に充当し、有効に活用させていただきます。



## ウクライナ避難民支援募金活動へご協力をお願いいたします

YOKEでは、ウクライナ避難民支援のための募金活動を行っています。  
お預かりした募金はウクライナから横浜市へ避難してきた方々の生活支援等に活用します。  
みなさまからの温かいご協力をよろしくお願いいたします。

活動期間 令和4年8月15日(月)～令和5年3月31日(金) ※延長の可能性あり

募金箱設置場所 公益財団法人横浜市国際交流協会(YOKE)  
横浜市西区みなとみらい1-1-1 パシフィック横浜 横浜国際協力センター5階

お振込み先 銀行名 横浜銀行 横浜市庁支店 普通預金 6063491  
公益財団法人横浜市国際交流協会

＜ご注意ください＞  
本募金は、税法上の控除対象外となります。領収証の発行はいたしかねます。振込手数料は本人負担となります。

## ウクライナ避難民支援募金活動へのご協力をお願い

公益財団法人横浜市国際交流協会(YOKE)では、ウクライナから避難してきた方々の生活支援等のために募金活動を行っています。皆さまの温かいご協力を申し上げます。

